

2 「親の学習」プログラムとは？（プログラムの特徴と構成）

- 「親の学習」プログラムでは、子育ての「理想」と「現実」のギャップを少しでも埋めるために、取組やすさを重視した。
- 「親の学習」プログラムでは、すでに充実した子育てに取り組んでいる方々はもちろんのこと、すべての方々に、気軽に取り組んでいただけるように、望ましい子育てのあり方の入門的な内容を多く取入れている。
- 「親の学習」プログラムは、ファシリテーター（学習支援者）をリーダーとして、参加者の活動を中心に進められる「参加型学習」とした。
- 『「親の学習」プログラム集』には、「すべての保護者」「乳幼児を持つ保護者」「小学生を持つ保護者」「中学生・高校生を持つ保護者」を対象としたプログラムと近い将来親となる「中学生・高校生」を対象としたプログラムがある。

「親の学習」とそれに類似する考え方の必要性は、これまでもさまざまなところで提案され、実際にさまざまな試みが行われてきました。それらの取組の成果を見ると、いくつかの実施上のコツがあることが分かってきました。そのひとつは、親に「子育てのあるべき望ましい姿」のみを提案しても、「それは分かっているんだけどねえ…」といった反応が返ってきやすいことです。したがって、今回のプログラムでは、子育ての「理想」と「現実」のギャップを少しでも埋めるために、参加者の方々に壁の低さを感じていただけるように、取組やすさを重視しました。

実際に「子育て」にかかわる親には、さまざまな方々がいます。自らがさまざまな情報を求めて実践している意識の高い方もいれば、はた目から見て「大丈夫なのかな？」と心配になるような方までさまざまです。このような家庭の差異がある中で、やはりあるひとつの考え方のみを提案するだけでは、心に響く方もいれば、それが難しい方もいるでしょう。

このような問題を解決するひとつの方策として、最近では、多くの実践的な学問領域で「行動科学に基づいたアプローチ」が開発、応用されています。このアプローチは、人間の行動変容の特徴を科学的に考えようとするところに特徴があります。つまり、こうしなければいけないというある意味の「我慢」だけを強いる精神論ばかりではなく、それが長続きするコツをも一緒に考えて、取り入れていこうという発想をもっています。

行動科学に基づいたアプローチでは、その目標に向けての動機づけ（準備性）によって、対象者をステージ（段階）に分けていく試みが行われます。具体的には、前熟考ステージ（充実した子育てに対してまったく関心を持っていない）、熟考ステージ（充実した子育てに取り組む必要性は認識しているが同時にそのコストを高く見積もっている）、準備ステージ（ごく近い将来に充実した子育てに取り組もうと計画している）、実行ステージ（充実した子育てに向けて実際に取り組んでいる）、維持ステージ（すでに充実した子育てに長く取り組む工夫を実際に行っている）に分かれ、あるステー

ジから次のステージに移るためには、ステージごとに異なる働きかけが有効であるとされています。

そこで、今回の埼玉県教育委員会が開発した「親の学習」プログラムでは、すでに充実した子育てに取り組んでいる方々はもちろんのこと、どちらかという、前熟考ステージや熟考ステージにいる方々にも、気軽に取り組んでいただけるように、単なる望ましい子育てのあり方が羅列された教科書的な内容というよりも、それらの入門的な内容を多く取り入れています。つまり、子育ての意識の高い方々だけでなく、より多くの方々に知っていただきたいエッセンス的な内容を中心に組み立てています。

また、これまでのさまざまな取組から明らかにされたもうひとつの実施上のコツは、専門家の講師が参加者に一方的に講義をするいわゆる「座学学習」よりも、参加者がプログラムに積極的にかわる「参加型学習」を基本とした方が、対象者の理解が深まりやすいということです。そこで、すべてのプログラムを、参加者の様々な活動を中心に進められる「参加型学習」としました。

また、子どもが成長するにしたがって、その子どもの年齢層の子育ての特徴が変化していくことから、この『「親の学習」プログラム集』は、「すべての保護者」を対象としているプログラムに加え、対象となる子どもの発達段階に応じて、「乳幼児を持つ保護者」、「小学生を持つ保護者」、「中学生・高校生を持つ保護者」を対象としたプログラムを準備しています。さらに、その多くが近い将来に親となる「中学生・高校生」を対象としたプログラムも盛り込まれています。

ある特定の年齢層だけでなく、全体に目を通していただければ、また多くの発見があることと思います。

